

沼津市青少年教育センター

# たより

令和元年10月号 No. 529

〒410-0881 沼津市八幡町97番地 ☎(055)951-3440 FAX(055)952-3300

## 読書のすすめ

沼津市校長会長 鈴木珠美（沼津市立第三中学校）

私は、本屋めぐりが好きです。夏休みに入った日に、早速本屋さんに行き、新刊本のコーナーを見ていたら、そこには青少年読書感想文全国コンクールのための課題図書が置かれていました。高等学校の部の中にあつた、「ヒマラヤに学校をつくる」という題名の本が目に入り、ネパールの子どもたちと一緒に、幸せそうにしている作者の笑顔の写真に心引かれ早速購入しました。1時間程度で読み終えたその本は、作者吉岡大祐さんのチャレンジ精神を育ててくれた両親の話から始まります。人との出会いを糧としてネパールに渡ることになり、針治療師としてネパールの人々を無償で治療するなかで、貧困にあえぐ生活のため学校に行けない子どもたちを知り、貧しい子どもたちのための学校をつくろうと奔走します。学校では、社会から放り出された何人もの子どもたちを受け入れ、作者は子どもたちとの関わりの中で「子どもたちが自らの力で育つ学校」が大切であることを実感していきます。そして、学校に職業訓練校を併設させ、子どもたちが職を得て自立していく様子を書いています。ノンフィクションの本は、その国に行かなくても、世界の様子を垣間見ることができます。1時間という読書の時間の中で、他の国に行ったような気持ちになりました。

日本人は、世界でも有数の本を読む国民として知られています。その歴史をたどると、第2次世界大戦の終戦間もない昭和22年に、まだ戦火の傷跡が至る所で残っている中、読書の力によって平和な文化国家をつくろうという決意のもと、出版社や書店、公共図書館、新聞、マスコミが加わり、第1回読書週間が開催されました。その時の反響は素晴らしく、この運動は全国に広がっていったそうです。文化の日を中心とした2週間が全国一斉の読書週間として定着し、現在でも広報され継続しています。なぜ、読書によって国を盛り上げようとしたのでしょうか。それは、日本が世界に誇る「識字率世界一」があると思います。識字率とは、15歳以上の人口で、母国語が読み書きできる割合のことです。世界の中では、戦争や貧困、学校がないなどの理由で、識字率が5割以下の国も多くあります。私たちは、新聞を読んだり、本を読んだりすることで、世界の国の様子を間近に感じることができます。私たちは、これからも日本の公教育を誇りに思い、秋の読書に親しもうではありませんか。

# わたしの主張

令和元年度 第38回 「沼津市わたしの主張大会」において、入選した作品を紹介します。

## 今度は私の番

沼津市立第二中学校 3年 貝原 葵

この十四年間、私はずっと家族に守られてきた。傍らにはいつも母が寄り添い、困ったことがあるとすぐに父が助けてくれた。双子の兄は分身のように一緒にいてくれて、四人の祖父母は何かあるとすぐかけつけてくれ私を抱きしめてくれた。温かい愛に包まれ私はいつも安心していたし、傷つくことがあってもその傷はすぐに癒え、家族の愛によってまたいつもの元気な自分を取り戻すことができた。しかし、そんな私の幼かった心が大きく変化していく出来事があった。祖母が重い糖尿病を患い入院したのだ。その後退院できたものの眼の手術を繰り返し、足を悪くしほんの数ヶ月の間に介助なしでは一人で歩くことができなくなってしまったのだ。

祖母は若くて美しいはつらつとした女性だった。私は料理上手な祖母の手料理が大好きだったし祖母お手製のワンピースをまといおしゃれな祖母と出かけるのが大好きだった。そして何よりその祖母に「葵はおばあちゃまに似ているね。」と言ってもらえることがうれしかった。そんな祖母は病気を機に外出を嫌がるようになり天気の良い日もカーテンを閉めきり家の中でふさぎこむことが多くなっていったのだ。

私の周りには身近に大病をした人間がいなかった。このこともあり私はこの時初めてショックを受けたことがある。それは、人は病気により外見だけでなく気持ちまでもがこんなに暗く変わってしまうのかということだった。そこにはもう太陽のように明るかった祖母はおらず周りにいる祖父、母までもが笑顔が消え暗く沈んでしまった。

祖母の具合が悪くなったと連絡が入ると、深夜でも母は泣きながら車を走らせ祖母に会いに行った。そばにいる私は何もできずつらかったが母に付き添い励ましの声をかけ続けた。そして祖母の病院に付き添うときには祖母と手をつなぎ足並みをそろえてゆっくり歩いた。時には一メートルを一分かけてゆっくりと。時には眼の見えなくなった祖母に「あと三メートル歩くと階段が四段あるよ。」と声をかけながら。

この頃私の中で何かが変わっていったと思う。日に日に年老いていく祖母の姿、今は元気な母もいつかは弱っていくだろう。今まで私を大切に守ってくれた家族を今度は私が守ってあげたい。助けてあげたい。皆の役に立ちたい。今の私にできることは何だろう。やはり一番は中学生の私にとって今この時しか頑張ることのできない

学校生活、そして勉強だ。しっかりとした将来の生活のためにも怠けず努力していかなくてはならない。

学校の勉強と同時に健康や病気についての本をたくさん読むようになりノートにまとめ勉強するようになった。自分自身の体や健康についても深く考えるようになったと思う。そして気になった栄養素や運動を見つけると皆に勧め自分も実践してみた。祖母の具合が良くなり生活の改善が結果として出てくると私はとてもうれしくなりもっと勉強するようになった。

病気はある日突然なると思うが、その病業はその人が何年も続けてきた偏った食事やストレスの多い生活によるものである。つまり健康な時から病気にならないよう規則正しい生活と整った食生活を心がけ自分の体を大切にしなければいけない。また、たとえ病気になってしまったとしても今までの生活習慣を変えていくことによって健康を取り戻すことができる。無関係のようにも思うがくよくよしやすいネガティブな性格も病気を招くので改善していかなくてはいけないことも分かった。

人体、命、病気、生活、栄養……。私は今この未知のつながりをもう少し専門的に勉強したいと思っている。この興味深い分野の勉強は大切な人たちの健康をサポートすることができ、自分自身も健康で充実した生活をおくることができると確信している。そのために私が目指すべき職業は医師？ 看護師？ 栄養師？ 野菜ソムリエ？ 今はまだ決まっていない。ただぼんやりと見えてきたこの夢に向かって今の私がやれることを頑張っていきたい。そしてしっかりと知識を身につけ私の周りの大切な人たちにその情報を伝え実践し、皆が健康で長生きできる助けになりたいと思う。また、自分自身ももっと世の中のことを広くたくさん知って、自分のため、人のためになることすべてを学びとらえて吸収していきたい。今まで私のことを大切に守ってきてくれた家族を支えていくのは、今度は私の番なのだから。

現在の祖母は何メートルも先にいる私を見つけ手を振って走って来られるほど元気になった。ずっと長生きしてほしい。私が夢を現実できるその日まで。



# 面接相談



◎非行・不登校・発達・子育て・進路・対人関係など  
 青少年に関する面接相談  
 ◎相談および申し込み受付時間：  
 午前9時～午後5時 月～金曜日（祝祭日を除く）  
 ◎相談申し込み：Tel 951-3440

## 令和元年7・8・9月の状況

各月の新規相談件数、相談ケース数、延べ相談回数は以下のとおりでした。

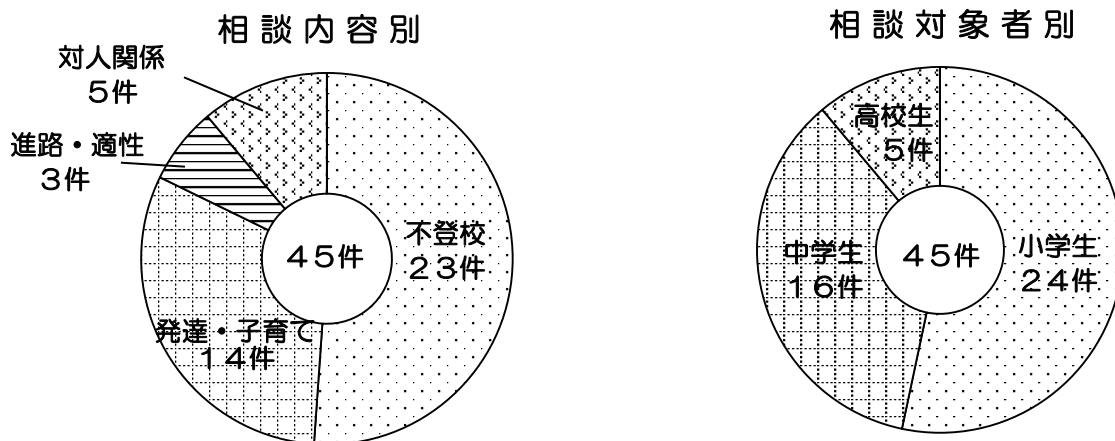
### 1 各月の新規相談件数（相談内容別）

	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
7月	0	4	1	1	1	0	7
8月	0	2	0	0	0	0	2
9月	0	6	5	0	1	0	12

### 2 各月の新規相談件数（相談対象者別）

	幼児	小学生	中学生	高校生	少年	一般成人	合計
7月	0	3	4	0	0	0	7
8月	0	0	2	0	0	0	2
9月	0	6	3	3	0	0	12

### 3 4月から9月までの新規相談受付状況



#### 4 4月から9月までの相談ケース数 ※年度における相談者1人を相談1ケースとする

	非行	不登校	発達・子育て	進路・適性	対人関係	その他	合計
男	0	25	18	6	4	0	53
女	0	23	9	5	2	0	39
合計	0	48	27	11	6	0	92

#### 5 4月から9月までの延べ相談回数

	面接	訪問	合計
男	523	0	523
女	269	0	269
合計	792	0	792

#### 7 相談指導学級の様子

相談指導学級では、基本的には通級生が自分で計画を立てて学習に取り組み、教科による得意・不得意やつまずき等、子どもたち一人一人の状況や疑問、思いなどに応じて個別支援を行う形で進めています。また、週に一度、様々な体験活動を企画しています。1学期は、たこ焼き作りや手打ちうどん作り、岳南鉄道を利用したハイキング、農園体験（野菜の栽培）などを行いました。それらを通して、どの子どもも充実感や達成感を味わうことができたようです。

夏休みに入り、相談指導学級の1学期も終了しましたが、夏休みの前後半に計11日間、午前中の時間を「自主活動」として開級しました。学級生4名中3名と今後入級を希望する2名の、合わせて5名が参加し、学校からの夏休みの課題や学校祭のポスター作りなど、自らの計画で取り組んでいました。短い日数ではありましたが、夏休み中の規則正しい生活づくりにも効果があったようです。

2学期に入り、新たに相談指導学級に通級できる子が2名増えました。現在、学級生6名、体験生2名が通級しています。これからも、子どもたちが、生活のリズム、協調性を身につけ、学ぶ意欲・体力などが向上するよう支援していきます。

#### 6 はばたき活動の様子

- 7 / 3 (水) 静浦漁港釣り  
相談指導学級と合同 (11人)
- 7 / 24 (水) らららサンビーチ海水浴  
相談指導学級と合同 (5人)
- 9 / 11 (水) 源兵衛川散策 (5人)
- 9 / 25 (水) チャレンジランキング  
(7人)

7月～9月は天候に恵まれ、野外活動や体を動かす活動を予定通り行うことができました。初めて魚を釣った子、海の中でビーチバレーを楽しんだ子、富士山の湧水の冷たさに驚いた子など、どの活動においても、仲間と一緒に楽しむ子どもたちの姿を見ることができました。

また、2回の相談指導学級との合同活動後に相談指導学級に入級した子や体験通級を始めた子がいます。仲間と一緒に活動することで集団活動での自信を得ていくことを実感しています。



# 電話相談

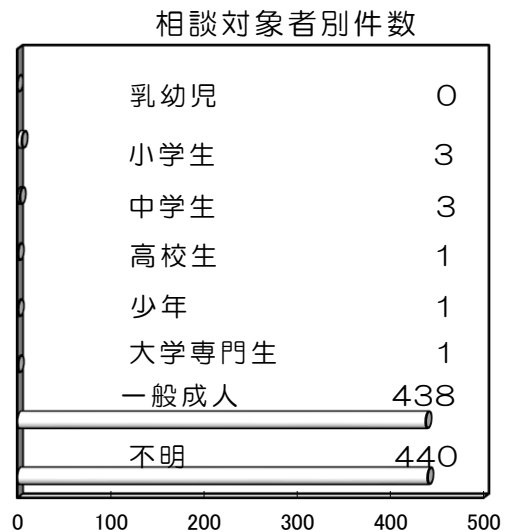
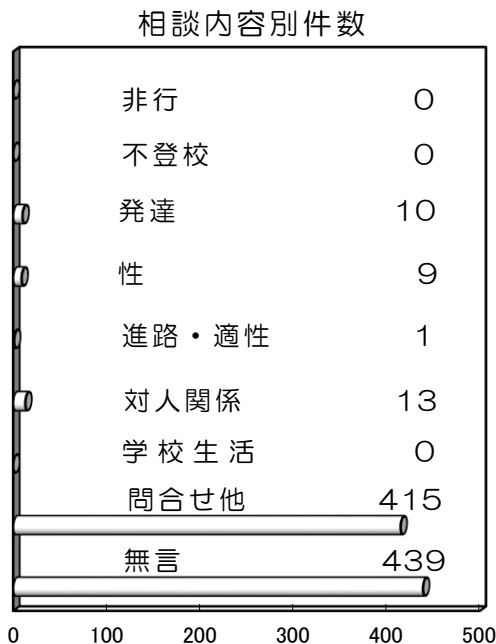


◎非行・不登校・発達・進路・対人関係など青少年に関する相談  
 ◎相談時間：  
 午前10時～午後7時 月～金曜日(祝祭日を除く)  
 ◎愛称：やまびこ電話 951-7330

## 令和元年7・8・9月の状況

7月には374件、8月には306件、9月には207件の相談が寄せられました。  
 (前年7月：283件、前年8月：393件、前年9月：153件)

### 1 7・8・9月の相談状況



### 2 令和元年度の電話相談受信件数状況

総件数 1,842件 (前年同期2,235件)

#### (1) 相談内容別

	非行	不登校	発達	性	進路・適性	対人関係	学校生活	問合せ他	無言
件数	0	5	16	23	1	25	5	812	955

#### (2) 相談対象者別

	乳幼児	小学生	中学生	高校生	少年	大学専門生	一般成人	不明
件数	0	8	13	4	2	3	852	960



# スマホを使う子どもを守るために

沼津市立浮島小学校 小野剛史

自分専用のスマホを持っている子どもの割合が年々増加している。内閣府が行った「平成30年度 青少年のインターネット利用環境実態調査」では、子ども専用のスマホを持っている割合は、小学生35.9%、中学生78.0%、高校生99.4%に達している。そのため、本校では今年度、4年生を対象に講師を招いてインターネット安心講座を開いた。子どもたちは、主にスマホやタブレット、携帯ゲーム機で、友達とやりとりしたり、「YouTube」を見たりしている。とても便利で楽しい道具だと思っていたが、使い方を間違えると、とても恐ろしい道具になることに気付くことができた。

スマホやネットを使う子どもを守ることは、学校での指導だけでは成り立たない。家庭と連携し、協力していくことがとても大切である。以下の5つの問いかけを基に、家庭でのルール作りを行ってほしい。

- ①マナーや時間を守っていますか。(長時間使用は、睡眠不足から体調を崩す)
- ②送信する前に見直していますか。(伝え方を間違えると人を傷つけてしまう)
- ③個人情報や載せたり送ったりしていませんか。(気軽に教えてしまうと、悪用される)
- ④ネットで知り合った人と会おうとしていませんか。(自分だけは大丈夫と思いがちである)
- ⑤自分やまわりの人のことを大切に考えていますか。(流出すると完全には削除できない)

スマホやネットは、さまざまな利点がある一方で、使い方によっては害をもたらすこともある。ネット犯罪の件数も年々増加の一途をたどっている。情報社会に起こるさまざまな問題を、自分自身で適切に判断し、行動できる力と態度を身に付けていくことが、これからの社会を生きていくためには必要だと思う。

## 1 少年補導委員の延べ参加人数（7・8・9月）

	市職員	教員	女性補導委員	母親補導委員	地区代表補導委員	警察	地区補導委員	総数
7月	6	5	0	8	3	0	103	125
8月	11	0	8	6	11	0	553	589
9月	12	14	8	5	6	0	290	335

## 2 補導回数・補導状況（7・8・9月）

	補 導 回 数				行為に対する 注意・指導	愛の 声かけ	法令違反・ぐ犯行為に関する連絡※	
	午前	午後	夜間	計			家庭・学校等	他機関
7月	0	7	10	17	30	234	0	0
8月	4	8	46	58	46	242	0	0
9月	2	9	34	45	84	197	0	0

## 3 補導活動（今年度9月までの累計） ※ ぐ犯……将来、犯罪に発展するおそれのある行為

補 導 回 数	延べ 参加補導委員数	行為に対する 注意・指導	愛の 声かけ	法令違反・ぐ犯行為に関する連絡※	
				家庭・学校等	他機関
243	1,876	0	1,354	0	0



#### 4 7・8・9月の街頭補導少年の学職別状況（中央・地区別補導）

夏まつりは、雨天による順延で日月の開催でしたが、都合をつけて補導に参加してくださった皆様のおかげで、大きな問題もなくイベントが開催されました。大変ありがとうございました。

7・8・9月については、本年度の4・5・6月、及び昨年度の同時期と比べて高校生は減り、中学生が増えたということが目立った状況でした。



区分	学職別	性別	小	中	高	その他学生	有職少年	無職少年	計	累四月から計の
			学	学	校					
			生	生	生					
行為種別	飲 酒	男							0	0
		女							0	0
	喫 煙	男							0	0
		女							0	0
	薬 物 乱 用	男							0	0
		女							0	0
	夜 間 は い か い	男			1	6			7	16
		女			1	5			6	13
	不 良 交 友	男							0	0
		女							0	0
	怠 学 ・ 怠 業	男							0	0
		女							0	0
	ゲームセンター入場	男			19	29			48	107
		女			43	21			64	138
	パチンコ店入場	男							0	0
		女							0	0
カラオケ店入場	男							0	1	
	女							0	3	
自転車の暴走行為	男				4			4	4	
	女				1			1	1	
自転車の二人乗り	男							0	1	
	女							0	1	
自転車の無灯火	男		1		4			5	14	
	女		1					1	1	
危 険 な 遊 び	男		3	4	6		6	19	19	
	女		2		1			3	3	
そ の 他	男		1		2			3	9	
	女							0	1	
計		男	5	24	51	0	6	0	86	171
		女	3	44	28	0	0	0	75	161
男 女 合 計			8	68	79	0	6	0	161	332

法令違反・ ぐ犯行為 に関する 連絡※	家庭・学校等	男							0	0
	他 機 関	女							0	0
		男							0	0
		女							0	0
男 女 合 計			0	0	0	0	0	0	0	0

※ ぐ犯…将来、犯罪に発展するおそれのある行為

愛の声かけ運動	男	167	101	115	15	0	0	398	787
	女	105	73	86	11	0	0	275	567
男 女 合 計			272	174	201	26	0	673	1,354

## 「沼津市青少年教育センターの歴史」

青少年教育センターの歴史をたどってみました。

現在の青少年教育センターの前身は、今から53年前（昭和41(1966)年）、市場町にあった沼津市文化会館内に開設された「沼津市青少年センター」です。この頃のわが国は高度経済成長期を迎え、青少年非行が急増した時代でした。青少年教育センターのスタートは、「補導」活動を中心として、青少年の非行防止と健全育成をめざした組織であったのです。

その後、社会環境の変化に伴い登校拒否（\*）や校内暴力、いじめ等々の問題行動にも対応すべく、昭和55(1980)年に「教育相談」部門を設けることになりました。その暮れには沼津市が「青少年健全育成都市」の宣言をして、青少年問題に対してさらに大きな力を入れて取り組み始めました。それを契機に新たな施設建設の機運が高まり、昭和61(1986)年3月に、現在の場所（八幡町）に「沼津市青少年教育センター」が建設されました。

さらに、平成7(1995)年には、「補導」「相談」の業務に加えて、面接指導を補う形で学校に行くことができない児童生徒を対象に「相談指導学級」が常設され、「補導」「相談」「相談指導学級」の3つの機能が揃い、現在の組織形態が整いました。

現在の建物も早くも築30年を越え、今年度9月より外壁の改修工事が行われています。時代は昭和から平成を経て令和の世となり、青少年を取り巻く環境も大きく様変わりしました。街で見かける青少年の姿は少なくなり、非行件数も激減しました。しかし、その一方でインターネットやSNSの発達により、表面には表れないところでいじめ等様々な問題が起きています。当センターも、外壁工事と共に心新たにさらなる青少年の健全育成をめざして歩んでいきます。これからもよろしくお願ひします。

\*当時は、「不登校」を「登校拒否」と呼んでいました。

## 青少年教育センターの活動予定（11・12・1月の主な活動）

※天候による変更あり

相談指導学級		はばたき活動	
11月7日(木)	調理体験	11月13日(水)	たこ焼きパーティ
14日(木)	ハイキング	26日(火)	墨絵
21日(木)	創作活動	12月5日(木)	ミカン狩り体験
28日(木)	農園体験	11日(水)	クリスマスツリー作り
12月5日(木)	ミカン狩り体験	1月22日(水)	新春お楽しみ会
12日(木)	創作活動	補導関係	
19日(木)	調理体験	11月15日(金)	補導委員会代表者会④
1月9日(木)	創作活動	30日(土)	高尾山祭典特別補導
16日(木)	調理体験	12月6日(金)	県内一斉冬季補導
23日(木)	創作活動		
30日(木)	ハイキング		

## 明るい子どもが育つまち

青少年健全育成  
シンボルマーク



青少年健全育成都市宣言（昭和55年）

あいさつで ひろがる愛の輪 地域の輪

青少年を優しく温かい心で包み込むという思いから、右側は笑顔、左側は手のひら、全体はハート（心）を表しています。